2022 年 12 月 20 日

各　　位

株式会社ＣＡＩＣＡ ＤＩＧＩＴＡＬ
代表取締役社長　　鈴木　伸
（コード番号：2315 東証スタンダード）
問合せ先：
代表取締役副社長　　山口　健治
℡ ０３－５６５７－３０００（代表）

連結業績と前期実績との差異及び個別業績と前期実績との差異及び特別損失（連結・個別）の計上に関するお知らせ

当社は、2022年10月期の連結業績及び個別業績につきまして、それぞれ前期実績との差異が生じましたので、下記のとおりお知らせいたします。また、2022年10月期第４四半期において連結決算及び個別決算において特別損失を計上いたしましたので併せてお知らせいたします。

記

１．2022 年 10 月期連結業績と前年実績の差異

	売上高 百万円	営業利益 百万円	経常利益 百万円	親会社株主に帰属する当期純利益 百万円	１株当たり当期純利益 円　銭
前期実績（A）	5,946	△915	△929	△799	△10 87
当期実績（B）	6,442	△1,389	△1,395	△6,244	△54 69
増減額（B-A）	496	△474	△466	△5,445	—
増減率（%）	8.3	—	—	—	—

注：当社は、2021 年５月１日付で普通株式 10 株につき１株の割合で株式併合を行っております。前期実績の１株当たり当期純利益は、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し算定しております。

２．2022 年 10 月期個別業績と前年実績との差異

	売上高 百万円	営業利益 百万円	経常利益 百万円	当期純利益 百万円	１株当たり当期純利益 円　銭
前期実績（A）	153	△309	△308	△3,114	△42 32
当期実績（B）	436	100	110	△12,895	△112 94
増減額（B-A）	283	409	418	△9,781	—
増減率（%）	184.8	—	—	—	—

注：当社は、2021 年５月１日付で普通株式 10 株につき１株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、１株当たり当期純利益を算定しております。

３．差異の理由

連結売上高は6,442百万円、前連結会計年度比で8.3%増加いたしました。これは、株式会社ＣＡＩＣＡテクノロジーズ（以下、「ＣＡＩＣＡテクノロジーズ」）におけるシステム開発が堅調であったことに加え、株式会社カイカエクスチェンジホールディングス（以下、「カイカエクスチェンジホールディングス」といいます。）、株式会社カイカエクスチェンジ（以下、「カイカエクスチェンジ」といいます。）及び株式会社カイカキャピタル（以下、「カイカキャピタル」といいます。）の連結子会社化の寄与によるものであります。

利益面につきましては、当連結会計年度から本格開始している、カイカキャピタルにおける暗号資産の投融資・運用による利益が伸長したものの、カイカ証券における売上高低迷の影響、カイカキャピタル、カイカエクスチェンジにおける暗号資産価格の下落に伴う暗号資産評価損計上による売上高の悪化、及びカイカエクスチェンジホールディングス、カイカエクスチェンジ、カイカキャピタルの３社の販売費及び一般管理費の取込等の影響を補いきれませんでした。

この結果、営業損失は1,389百万円（前年同期は営業損失915百万円）、経常損失は1,395百万円(前年同期は経常損失929百万円)となりました。

また、貸倒引当金戻入額10百万円、償却債権取立益150百万円、受取和解金550百万円等、特別利益711百万円を計上する一方で、特別損失5,602百万円を計上いたしました。これは主に、当社連結子会社カイカフィナンシャルホールディングス及びその子会社において、暗号資産市場におけるステーブルコインの暴落などの外部環境の悪化等により事業計画の変更を余儀なくされ、当連結会計年度の売上及び営業利益は事業計画に比べ大幅な未達となったことから、のれん及び関連する事業資産を回収可能価額まで減額し、当該のれんの未償却残高の全額である5,126百万円の減損損失、ソフトウェアの減損損失280百万円等、計5,527百万円の減損損失を計上したことによるものです。この結果、親会社株主に帰属する当期純損失は6,244百万円（前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失799百万円)となりました。

暗号資産ビジネスを取り巻く環境は世界的なインフレが起こるなか、世界各国で急速な金融引き締めが起き、暗号資産はリスクアセットとして大きく売られ、暗号資産の価格は大幅に下落しております。追い打ちをかけるように、テラショック、セルシウスショック、FTXショックと、大規模な事件が続き、これまで以上に不透明感が増しております。

こうした状況をふまえ当社グループは、これまで業績面、キャッシュ・フロー面で大幅なマイナスの影響をもたらしていた金融サービス事業の在り方を見直しいたします。具体的には、カイカ証券グループにて展開してきた日経平均、国内個別株、海外個別株、金銀プラチナおよび、米ドルを対象原資産とするカバードワラントの発行を停止し、サービスメニューを抜本的に変更いたします。さらに暗号資産交換所Zaifにおいては自動売買サービス等のストック型ビジネスの拡充、Web3領域においてユーティリティ性の高いコインの新規取り扱いを目指します。

なお、当社グループは2022年10月にWeb3事業への参入を表明しており、2022年11月にZaif INOローンチパッド（一次販売）をローンチし、NFT 事業を開始しております。今後は、Web3 インフラサービス、ステーキングサービスの「Web3 BaaS事業」、ウォレット提供、投げ銭提供の「決済代行事業」、Web3コミュニティ支援の「Web3事業支援」を推進し、ＣＡＩＣＡ ＤＩＧＩＴＡＬグループとして来期に向け各種施策を始動しております。

2022年10月期の個別業績につきましては、2020年３月の持株会社体制に移行して以来、グループ全体の企業価値向上に向けた事業を展開しており、グループ経営体制の充実に向けた各種施策の実施等により増収となりました。利益面では営業利益、経常利益は増益となったものの、関係会社株式評価損等の特別損失を計上したことにより当期純損失は12,895百万円となりました。

４．特別損失（連結・個別）の計上について

（百万円）

	連結	個別
（１）減損損失	5,527	－
（２）固定資産除却損	10	10
（３）投資有価証券評価損	64	－
（４）関係会社株式評価損	－	13,012

（１）減損損失（連結）

当社連結子会社カイカフィナンシャルホールディングス及びその子会社において、暗号資産市場におけるステーブルコインの暴落などの外部環境の悪化等により事業計画の変更を余儀なくされ、当連結会計年度の売上及び営業利益は事業計画に比べ大幅な未達となったことから、のれん及び関連する事業資産を回収可能価額まで減額し、当該のれんの未償却残高の全額である 5,126 百万円の減損損失、ソフトウェアの減損損失 280 百万円、その他の資産の減損損失 120 百万円を計上いたしました。

（２）固定資産除却損（連結・個別）

ソフトウェアの固定資産除却損として連結・個別にそれぞれ 10 百万円を計上いたしました。

（３）投資有価証券評価損（連結）

ＣＡＩＣＡテクノロジーズが保有する投資有価証券について、財政状態や今後の見通しについて判定を行った結果等により、2022 年 10 月期第４四半期連結会計期間において、投資有価証券評価損 64 百万円を計上いたしました。

（４）関係会社株式評価損（個別）

当社が保有するカイカフィナンシャルホールディングスの株式について、実質価値が低下したため、2022 年 10 月期の個別決算において関係会社株式評価損として 13,012 百万円を計上いたしました。

なお、個別決算で計上される関係会社株式評価損は、連結決算において相殺消去されるため、連結損益に与える影響はありません。

以　上